

県内企業景気動向調査報告（2021年7～9月期）

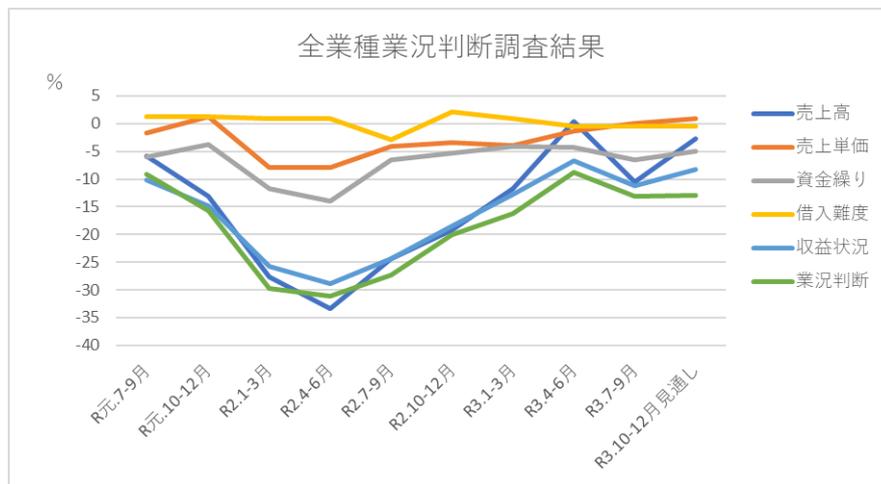
「業況判断」は3業種で下降、来期は上昇する見通し

調査対象 鳥取県内企業（鳥取県下4商工会議所の調査による）
 回収数 116社【製造業34社、非製造業82社（建設業25社、卸売業19社、小売業21社、サービス業17社）】

＜今期・来期の状況＞

全業種における今期の状況は、「売上単価」を除く5つの項目で前期よりも下降している。特に「売上高」は前期から▲10.9ポイントと大きく下降した。業種別の「業況判断」では、製造業が2.1ポイント、非製造業が▲7.1ポイントを示した。非製造業のうち建設業を除く3つの業種で下降傾向を示しており、最も下降が大きかったのは小売業で、前期から▲16.7ポイントとなっている。

来期の見通しについては、「業況判断」「売上高」「売上単価」「資金繰り」「収益状況」の5つの項目で上昇する見通しとなっており、「業況判断」では0.3ポイント、「売上高」では最も大きい7.8ポイントを示した。業種別の「業況判断」では、卸売業で5.6ポイント、小売業で3.7ポイント、サービス業で2.5ポイントと3業種で上昇する見通しが示された。



	回収数	前年同期比*()内は2020.7～9月期の数字						来期見通し(2021.10～12月期)*()内は前年同期の数字					
		売上高	売上単価	資金繰り	借入難度	収益状況	業況判断	売上高	売上単価	資金繰り	借入難度	収益状況	業況判断
全産業合計	116	-10.5 (-24.4)	0.0 (-4.1)	-6.6 (-6.6)	-0.5 (-2.9)	-11.2 (-24.4)	-13.2 (-27.3)	-2.7 (-20.0)	0.9 (-6.6)	-4.9 (-7.0)	-0.5 (-3.7)	-8.3 (-20.4)	-12.9 (-20.8)
製造業	34	4.4 (-30.0)	5.9 (-12.8)	-4.4 (-12.9)	0.0 (-9.2)	3.0 (-26.9)	-4.4 (-32.1)	7.4 (-22.5)	8.9 (-11.5)	-4.4 (-16.7)	-1.5 (-11.8)	-4.5 (-24.4)	-8.9 (-24.4)
非製造業	82	-16.7 (-21.8)	-2.4 (0.0)	-7.5 (-3.7)	-0.6 (0.0)	-17.1 (-23.3)	-16.9 (-25.0)	-6.9 (-18.9)	-2.5 (-4.2)	-5.1 (-2.4)	0.0 (0.0)	-9.9 (-18.5)	-14.6 (-19.1)
(建設業)	25	-10.0 (-19.2)	4.0 (2.0)	2.0 (-2.0)	4.2 (0.0)	-14.0 (-21.2)	-10.0 (-25.0)	7.9 (3.6)	-2.0 (0.0)	0.0 (0.0)	2.1 (0.0)	-8.0 (-25.0)	-14.0 (-17.4)
(卸売業)	19	-13.2 (-16.7)	0.0 (7.2)	-5.3 (4.8)	-2.7 (4.8)	-15.8 (-19.1)	-19.5 (-21.4)	-2.6 (-16.7)	-5.6 (-4.8)	-5.3 (2.4)	-2.7 (4.8)	-7.9 (-16.7)	-13.9 (-19.1)
(小売業)	21	-32.5 (-22.5)	-9.5 (-7.5)	-16.7 (-15.0)	-4.8 (-7.5)	-31.0 (-18.4)	-26.2 (-23.7)	-12.5 (-15.0)	0.0 (-7.5)	-7.1 (-7.5)	0.0 (-5.0)	-16.7 (-13.2)	-22.5 (-22.2)
(サービス業)	17	-11.8 (-30.6)	-5.9 (-2.8)	-13.4 (-3.2)	0.0 (3.2)	-5.9 (-36.1)	-12.5 (-30.6)	-6.3 (-22.2)	-3.2 (-5.6)	-10.8 (-6.3)	0.0 (0.0)	-6.3 (-16.7)	-10.0 (-22.3)

BSI=1/2(X-Z)、X=上昇・増加、Y=横ばい、Z=減少・下降、ただし(X+Y+Z=100)

＜直面している経営上の問題点＞

- 1位：原材料・仕入価格上昇（16.8%）
- 2位：売上・受注の減少（16.5%）
- 3位：消費・需要の停滞（13.4%）
- 4位：人手不足（11.8%）
- 5位：利益率低下（8.7%）

<業種別の問題点等>

◆建設業

- ・今後の公共工事発注が先行き不透明であり、次年度以降の収益環境は厳しいものと予想される。
- ・第一に人手不足（若手の応募がない）なので、技術の継承が出来ない。
- ・県を跨ぐ移動が難しいため、工事範囲が限られ、施工応援を他県から呼べない等、コロナの影響はじわじわと感じる。

◆製造業

- ・国や行政のコロナ支援が業種や業界により大きな偏りがある。
- ・海外輸入先がロックダウンとなり制御関係部品の入荷が困難となっている。この状況は暫く継続する模様。
- ・今年の売上高は増加しているが、昨年が悪すぎた結果として増加しただけ。一昨年と比較すればやはり減少しているし、原材料の不足と単価急上昇で利幅は薄い。
- ・半導体不足や東南アジアの部品が新型コロナウイルス感染症の影響により調達不足等になり自動車減産となっているため、受注に影響が出ています。
- ・様々な資材の価格が高騰しており、特に鉄板は昨年の2倍以上になっています。製造業には収益を悪化させる大問題となっております。
- ・設備の老朽化対策及び新営設備導入投資が問題になっている。

◆小売業

- ・7月からのコロナ感染者急増に反比例するように客足と売上は減少した。
- ・10月より仕入価格が2～12%上昇し、完成車（新車）が売りづらい。部品もスムーズに入荷できなくなっている。

◆サービス業

- ・コロナショックの長期化により、業況回復の兆しが見えない。
- ・「We Love山陰」等のキャンペーンを再開していただけるのは嬉しいですが、マスコミに流れた後に各旅館に再開のFAXが流れてくるのはいかがなものか？「ニュース見てTELしたのですが…」とお電話をいただいても返答できず困る。